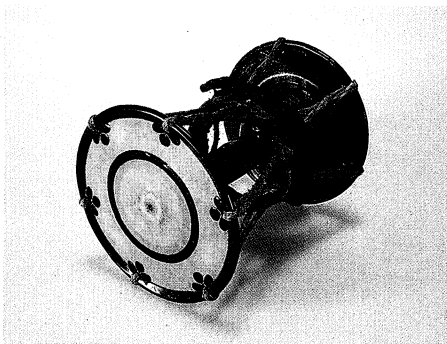


企画展

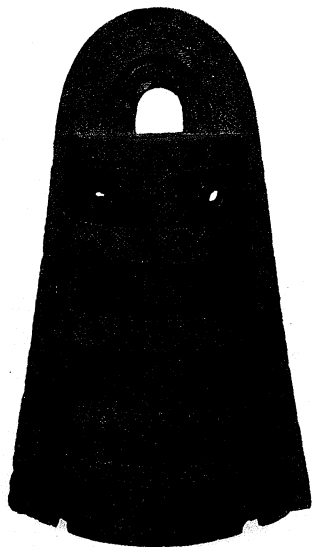
日本の音色

―楽器の源流をたずねて―

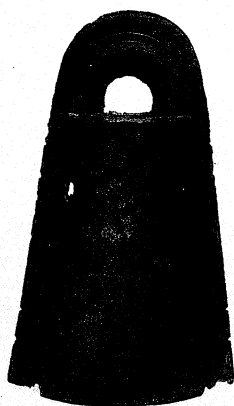
会期 一月十九日(土)〜三月二十一日(日)  
会場 県立博物館



現在、私たちの身のまわりにある楽器にはさまざまなルーツがあります。最も古いものでは、遠く縄文時代に起源を持つ土笛などがありますし、その後、シルクロードを通して飛鳥時代に日本に伝えられた雅楽の楽器、雅楽から発展し、武家社会の「能」などの芸能に使われた楽器、庶民の生活の中でまつり等に使われた楽器などが現代の日本音楽の主なルーツになっています。企画展「日本の音色」では、国宝桜ヶ丘銅鐸をはじめ



▲国宝桜ヶ丘10号銅鐸 神戸市立博物館蔵



▶国宝桜ヶ丘1号銅鐸 神戸市立博物館蔵

めとする多くの実物資料を用いて、原始時代から近世に至る楽器の歴史を以下の五つのテーマに基づいて展示し、楽器の変遷を通して各時代の特色を探ります。

①古代の調べ



原山1号墳出土人物埴輪 琴を弾く人 館蔵

- ② 古代の演奏者たち
- ③ 雅楽の世界
- ④ 武家の芸能と社会
- ⑤ 庶民の芸能と楽器

また、古楽器の音色を自由に聴くことができるコーナーを設け、実際の音に触れていただくとともに、琵琶の弾き語りによる「平家物語」の演奏や、箏・笛などのミニ演奏会なども予定しています。

ミニ演奏会

1月27日(日) 13時30分  
琵琶弾き語り(平家物語) 山内とも子氏

3月3日(日) 13時30分  
琴、笛の演奏会 琴麗会会長 宮城慎三氏他